

- 1 まえがき:新しい経済学の息吹を感じ取るだろう。(読者から名著だという声が聞こえてくる。)
- 2 マイナス金利の現状は「資本主義の終わり」「資本主義とは逆のもの」が誕生している。
- 3 マル経も近経も学んだ。貝塚茂樹(父小川琢治)子息の授業は読み上げるだけの訓詁学。
- 4 マル経は、「元手を使って価値を創造し、元以上に豊かになる」という経済の基本理念が把握できていない。労働者が製品を作り、販売・回収して富になる。「労働価値説」は誤謬。
- 5 近経でも、成長率2%を目指して、消費税率を5%にという愚策、近経も非近代的な学問。
- 6 消費税反対の大川総裁の経済方針を借用した安部総理、消費税を上げて大失敗。さらに浅知恵で賃上げを依頼し、経済の回転を期待。賃上げは企業の余剰を減じ、倒産の危機。マル経でさえ、「賃上げは恐慌になる」と教えている。アベノミクスは大恐慌を招く恐れあり。
- 7 資本主義が恐慌で終っても、悲觀するな。何かを学び取って新しいものが誕生する。
- 8 金本位制 紙幣 電子マネーと移行したが、サイバー攻撃の時代には盗まれる危険性あり。情報:トランプの一掃後に復帰、4ヶ月後大統領選で引退、GESARA、金本位復帰、宇宙技術公開
- 9 新自由主義経済もRショックで信用喪失。「騎士道精神」に基づくトリクルダウンが起きた。レブ的資本家の「欲」で繁栄が止まった。次の「信用」は何か?神理経済学?
- 10 (西洋の資本主義成功): M・ウエーバーは「プロテスタンティズム(予定説)の倫理と資本主義の精神」で宗教説を説いた。経済的成功者は天国に行ける人間と予定された人、だから、禁欲・勤勉・成功者への道を歩んだ。(日本での成功の原因)は「職業イコール仏道修行」を唱えた三河の禅僧鈴木正三にある、と山本七平氏は推定した。「強国論」のランデス教授は日本最強説
- 11 資本主義精神とは何か:「元手に付加価値を付けて、如何に大きくしていくか」が原点的思考である。手法は各国家に固有のものだから、BIS規制などの適用は間違っている。
- 12 HSの経営は「説法本位制」である。説法がインフレの感、しかし存命中に「埋蔵金」将来の新規事業の「原資」作り。信者組織が固まれば、教団は信者組織に支えられるようになる。やがて、人類は「埋蔵金」から「7色の神理資格・免許」を創造・追及する?財団法人資格検定協会?
- 13 発展途上国はまだ資本主義経済が発展する可能性があるが、問題は先進国。現状では高度に発展した国の製品を買ってくれる途上国がない、日本の繁栄はどこに?価値創造が必要。
- 14 未来型資本主義に必要なのは「創造的なアイディア」、天上界からのインスピレーションを受ける頭脳を育てる。教育の生産性を高めること、それにはファジーと見えるものに挑戦し鉱脈を発見せよ。「インスピ」が投機と投資を結ぶ。(人知アイディアは価値無し)
- 15 新しい発明する人(エジソン)がいて、それを事業化する人(ジャック・ウェルチ)が必要である。さらに言えば、資金として回収できなければ「富」として定着はできない。
- 16 三次元社会は「閉じた社会」であることを、カール・ポパーは知らなかった(その弟子がジョージ・ソロス)。その外側に見えない異次元世界・靈的世界があり、「新しい真理が多く眠っている」ことを我々は知っている。プラトン・ソクラテス(ハイスクール)らのように。
- 17 学問のイノベーションも必要、多くの学問が考古学、訓詁学のような「ガラクタ」になっている。頭脳の訓練にはなるだろうが、手段を目的にすると「付加価値」はゼロになる。
- 18 経済を障害物競走に譬えれば、消費税はハードルにあたる。ハードルを少なくしたら、フィールドを早く何回も回れるように、経済も回って繁栄する。経済学者は誰も言わない視点。
- 19 自由に走らせること、「未知世界へのひらめき的研究・教育の道を開く」、阻害要因にを減らしていくこの二つが大切。神様の祝福を受けられるような経済的成功を目指せ。